は　じ　め　に

校長　大西英人

本校では、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の研究開発名を「奈良発！未来を創造するグローカル・リーダー育成プログラム」とし、全生徒を対象とした課題研究の計画・実践を核と位置づけ、パワフルで創造的な次代の地域リーダーを育成するプログラムの開発に取り組んでまいりました。本年度、事業２年目のポイントとしては、全生徒を対象とした少人数指導による課題研究の計画と実施、とりわけ外部指導者との連携事業の実施や、情報の発信、発表のための外部コンテスト等への積極的参加を考えていました。また、世界を俯瞰するグローバルな視点を持つことや、身近な地域の特徴や変化に気づき、課題として整理する能力を養うには、基礎的な知識・技能を習得させたうえで、現場での観察やそこで活動している人々との出会いが重要であるとの認識から、海外も含めたフィールドワーク等による活動の充実を計画しました。指導に関しても、教員が教科性を越え、連携して生徒の研究を支援できる体制作りのための研修を実施するなど、取り組みを進めていました。

ところが、ご承知のように新型コロナウイルス感染症の拡大により４月、５月は臨時休校となり、実質２ヶ月以上にわたって学校全体の活動が停止するという事態となりました。登校は６月以降に再開されたものの、密を避けるため、しばらくは隔日登校、短縮授業などの対応となりました。夏期休業以降は、感染症対策を講じれば、授業はほぼ通常どおりに実施可能となりました。しかし、多くの教育活動には制約が残り、とりわけ、生徒が一堂に会する行事やグループでの活動、体験型研修等は、基本的に実施が難しい状況となりました。そんな中でも、生徒達は、自らテーマを定め、各々が小集団でマイクロフィールドワーク等を実施し研究を展開してくれました。また、海外渡航が制限されたことにより、オーストラリアの海外姉妹校との交流研修は中止となりましたが、国内在住の外国人留学生等との交流プログラム等に取り組むなど、可能なことから行うという姿勢で事業を進めています。

生徒達の課題研究の進捗状況は、予定より遅れている部分も多く、最終年度に向けて乗り越えるべき多くの課題があるように思います。ただ、生徒達には、研究スケジュールの遅れへの対応に多くを費やすのではなく、研究内容の深化と、その成果の発展性、将来へどのようにつなげるのかといった見通しを含めた大きな視野を持ちながら、研究を進めて欲しいと思っています。指導する我々も、生徒のモチベーションに配慮しつつ、研究プロセスの中での学びこそが肝要であるという姿勢で臨みたいと思っています。新型コロナウイルス感染症の拡大による社会生活への影響は、変化の激しい予測困難な社会を端的に示したものでもあります。変化をともなう新たな課題に対して、どのように対応していくのか、生徒も教職員も共に考えながら事業を進めてまいる所存です。

この実施報告書は、令和２年度における本校の取組の成果や課題等をまとめたものです。次年度以降の本校の取組に生かせるよう、多くの方々にご覧いただき、様々な観点から、ご批評やご助言をいただければ幸いです。

最後になりましたが、県教育委員会事務局各課をはじめ、運営指導委員の皆様、連携いただいた大学や関係機関、企業の皆様、本事業のコンソーシアム構成機関の皆様にはご理解、ご支援を賜りましたことを厚くお礼申し上げますとともに、今後とも引き続きご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。